



美術と人（子ども）の関わり —社会—教育—医療を包括する美術の社会的意義—

キーワード 造形表現教育、臨床美術、乳幼児保育、発達支援、心理支援、脳機能測定（NIRS）

研究内容

「乳幼児（3歳未満児）に対する臨床美術を導入した造形表現カリキュラムの構築」（科研費番号23531098）：乳幼児に対して初発的感覚を多用する臨床美術を導入したアートプログラムを開発し、意欲の向上、保育士の気づきと理解について効果を得ることが出来ました。

「多職種協働による芸術保育を主軸とした日常保育実践モデルの開発」（15K01773）：芸術表現活動を主体とした子どもの豊かな感性の伸長と保育の質的向上を目的として、臨床美術士、保育士、研究者らとの協働実践によって発達段階を踏まえた日常的、俯瞰的な造形表現活動を構成しました。

「発達支援プログラムとしての美術表現活動の確立へ向けた脳内ネットワークの解析」（20K02706）：美術表現活動中の大脳皮質の脳血流の増減について機能的近赤外分光分析器（fNIRS）を用いて測定し、高次な精神活動における脳内ネットワークの機序を解明し、発達支援としての芸術療法プログラムの開発を目指しています。

関係論文、特許・著作物等の知財情報、連携の実績

- ・「描画行為が健常者の脳活動に及ぼす影響—光トポグラフィー（NIRS）による検証—」東北福祉大学感性福祉研究所年報11号, 2010, p.51-58
- ・「3歳未満児保育に対する造形表現活動の意義：臨床美術実践プログラムの導入」東京家政大学研究紀要1 人文社会科学, 55,2015, p.131-140
- ・臨床美術による表現活動が児童養護施設入所児童に与える影響について, 保育学研究, 54(2), 2016,95-106

社会連携・産学連携の可能性

幼稚園、保育所、小学校、発達支援センター、児童養護施設、高齢者福祉施設等における臨床美術の実践、研修等、企業との連携による脳活性化を図る造形美術カリキュラムの開発等。

